

ふれあいネットワーク



社協

まつもと



ふるさと  
**故郷を離れて松本の夏を満喫  
信州まつもとこどもキャンプ**

福島県飯館村の子どもたちがプールで笑顔  
(安曇小中学校屋内プールで)

松本市はこの夏、福島第一原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた飯館村の子どもたちを、夏休み期間を利用して「信州まつもとこどもキャンプ」に招待しました。

期間中、奈川地区を拠点として地元や学校関係ボランティア、行政、松本市社会福祉協議会が協働して延48人の子どもたちとその保護者にひと夏の思い出をプレゼントしました。

原発事故以来、飯館村の子どもたちは日々の暮らしや学校生活の中で外に出られない等の制限を受けており、初めはやや表情も緊張した面持ちでした。しかし、松本の自然や文化、人々のあたたかさや優しさに触れ、徐々に本来の明るい子どもたちの声が聞かれるようになりました。

今回のキャンプに参加した子どもに感想を聞くと、「この夏の松本での思い出は、とても温かいものとして心に残り、大人になっても忘れないと思います」とのこと。

“子は国の宝”と言いますが、早く地元福島でも子どもたちに、本来の笑顔が戻ることを願うばかりです。

- ・松本市社会福祉大会から…………… 2 P
- ・絆を深めて地域の力に…………… 2 P  
(第2次地域福祉活動計画事業の紹介)
- ・在宅介護者の集い参加者募集…………… 3 P
- ・成年後見制度の講談とシンポジウムのお知らせ… 3 P
- ・障害者福祉施設の取り組み…………… 3 P  
(ナイスハートバザールin松本から)
- ・福祉まんが「あいちゃん」…………… 3 P
- ・ボランティア情報「こてまり」…………… 4～5 P
- ・平成23年度共同募金の協力依頼と使いみち…………… 6 P
- ・社協車いすの返却と更新手続きのお願い…………… 6 P
- ・日赤救急法救急員資格継続の研修のお知らせ…………… 6 P



発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000  
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239  
E-mail:syakyoun@avis.ne.jp http://www.syakyo-matsumoto.or.jp

私にもできる安全・安心な地域づくり

# 子育て中の母親も共感—松本市社会福祉大会

【講演要旨】  
 ・楽天家の私も、息子が大きなハンディをもって生まれてきた時は、将来を不安に思いました。しかし、**視覚障害者の方から「普通に育てれば良い」との言葉**をいただき、視覚障害について自分なりの物差しで考えていたと感じました。  
 ・ハンディキャップをもって生まれたことを気にして、下ばかり向く人生を送ってほしくないと思います。

表彰されました。  
 続いて、世界的ピアニスト辻井伸行さんの母、辻井いつ子さんの記念講演が行なわれました。  
**「明るく、楽しく、あきらめない」をモットーに、子どもの可能性を信じ、伸行さんの音楽の才能を見つけ、プロのピアニストへと二人三脚で歩んできた体験**を語っていただきました。  
 子育て中の若い母親の参加も例年になく多く、会場内は超満員となり、関心の高さがうかがわれました。



松本市社会福祉大会が七月十二日、約八百六十名の参加者を得て浅間温泉文化センターで開催され、社会福祉事業に功労のあつた四十六の個人・団体の方々が

今では、笑っている息子の顔を見て、音楽が光の射すところに息子を導いてくれたのかな、と感じています。  
 ・コンクールに出場した時のこと。他の子どもが弾き終わつた後、母親が子どもに否定的な言葉を浴びせるのを見て、びっくりしました。今は、結果だけを気にする親が増えているように思います。**結果だけではなく、そのプロセスを評価することが大切**であると思います。  
 ・私心がけたのは、できないことを嘆くより、できることを喜ぶこと。他の子どもと比べないで、その子らしく育てることが大事です。  
 【参加者の感想】  
 ・子どもも大人もたくさんの人の前でほめられることは、とても嬉しく励みになると感じました。お互いを認めることで、助け合いの輪が広がることにもつながると思います。  
 ・声や話し方がとても柔らかく、上手で聞き入っていました。  
 ・普通とか平凡ということとはとても難しいです。自分の今できること、目の前にあること、一つひとつが大切だと思います。自分も子どもとともに成長できたことに感謝しています。  
 ・松本の震災のことにも触れていただき、「トンネルから抜ける日が来ることを信じて!」という、体験を踏まえた言葉に勇気づけられました。  
 ・辻井さんのお話を自分の子育てに活かしたいです。



## 絆を深めて地域の力に

各地の地区社会福祉協議会は、「夏祭り」を開催して**地域の絆をはぐくみ、福祉活動の基盤づくりを行なっています。**

これは第2次地域福祉活動計画の基本方針に基づく地域づくりの一環です。本年度策定した**第2次計画**は、地域の福祉課題や生活課題の解決に向けて、地域住民や地域団体、地域内の福祉関係機関等が、直接・間接にそれぞれの役割を果たしながら、地域をつくりあげていくことをねらいとするものです。



おかだ夏まつりでは、障害者等共同作業訓練施設「岡田希望の家」も出店して大いに賑わいました



島内とうろうまつりでは荘厳な太鼓の音が響きました



松南地区なんぶ未来(ゆめ)まつりでは、みこしの担ぎ手の子どもから大きな掛け声が聞かれました



# あいちゃん

作.上原ゆり子



- 内 容：第1部 神田織音さんによる成年後見制度についての講談 第2部 シンポジウム
- 日 時：平成23年10月29日（土） 午後1時30分～4時30分
- 場 所：松本市総合社会福祉センター4階 大会議室
- 対象者等：参加費は無料で、どなたでもご参加いただけます。（申し込みは不要）
- 問い合わせ 成年後見支援センターかけはし 電話88-6699



## 在宅介護者のつどい参加者募集中!

日頃、自宅で介護されている方を対象に、介護の悩みや体験を話し合い交流する中で、介護疲れを癒していただくこと「在宅介護者のつどい」を下記のとおり実施いたします。福祉サービスの紹介や健康相談も行ないます。気軽にお申し込みください。

### 【1泊2日コース】

日 時	行き先	内 容	締め切り日
11月8日(火)9日(水)	静岡県伊豆長岡温泉	介護者の交流、健康福祉相談等	10月14日

### 【日帰りコース】

日 時	行き先	内 容	締め切り日
平成24年2月17日(金)	美ヶ原温泉	介護者の交流、健康福祉相談、つぼマッサージ	平成24年1月27日

- 対象者：現在、自宅で要介護者（要介護度1以上の方）を介護している市内在住の方
- 定 員：各コース15名（※原則、1世帯につき1名の参加となります。申し込み多数の場合は、新規の参加者を優先します。）
- 参加費：1泊2日コースは5,000円、日帰りコースは1,000円
- 申し込み方法：各コースの内、いずれか1つを選び、締め切り日までに下記にお申し込みください。
- 問い合わせ・申し込み 社協地域福祉課 電話27-3381

### 成年後見制度を知ろう

## 神田織音さんの講談とシンポジウムへどうぞ

判断能力が不十分な方の権利を守る成年後見制度について理解していただくために、真打ちの講談師、神田織音さんをお招きし、同制度の講談とシンポジウムを開催します。主催は成年後見支援センターかけはしです。

なお、同センターは、成年後見制度について週1回弁護士・司法書士が専門相談を行なうほか、社会福祉士2名が常時相談に応じていますのでご利用ください。

## 製品の販売・受託作業の確保、外部就労先の拡大をめざして ～私たち、生きいきと働いています!～

中信地区の障害者福祉施設や作業所による販売会「ナイスハートバザールin松本」が7月23、24日にカタクラモールで開かれました。このバザールは、施設の活動と製品を知っていただく貴重な場で、施設利用者とお客様との交流を図るとともに、売り上げは施設利用者の工賃（給料）として還元されています。このような販売会は、今後も市役所、松本合同庁舎で定期的に行なわれるほか、市民祭、あめ市など各種イベントに出店する予定ですのでご利用ください。施設利用者は、仕事や販売会を通して、働くことの喜びや、人の役に立つことを実感し、大きな励みとなっています。

各施設は事業者から仕事を受けて、作業収入を得ていますが、昨今の経済状況や先の震災により、仕事量も減っているのが現状ですので、地域の皆さまには福祉施設の活動をご理解いただき、自主製品の販売会、さらに仕事の確保についてご支援、ご協力をお願いいたします!

### ナイスハートバザール in 松本 障害者福祉施設の合同即売会



大勢の来場者が訪れたバザール

# ボランティア情報 こてまり

- 『こてまり』はこんな情報を発信しています！  
ボランティア活動についての情報・活動者、団体の紹介・講習会や行事などの紹介
- 問い合わせ/記事掲載の申し込み  
松本市社会福祉協議会内ボランティアセンター TEL25-7311 FAX27-2239

## ボランティア活動紹介

### ～中信レクリエーション協会～

中信レクリエーション協会の皆さんは、福祉施設や各種イベントなどで、幅広い年代の方々とレクリエーションを通して交流を深めています。

7月23日に行なわれた障害者社会就労センター・コムハウスの夏祭りにも参加しました。この日は代表の大月一夫さんと共に3人のメンバーの方がバルーンアートの「刀」や「犬」を製作し、お祭りに来ている子供たちにプレゼント。とても人気があり、作品を作る手をなかなか止められませんでした。



この剣がいい！



バルーンアートを作るメンバー

「レクリエーションをすることで、人とのふれあいが生まれます。元気を届けさせていただいてますが、反対に皆さんからパワーをいただいているんですよ」と大月さん。様々な場所へ訪問していますが、自然と「訪問先の皆さんと同じ目線で一緒に楽しませて頂いている」という気持ちになってくるそうです。「あやとりを使った手品などもしているんですよ。手も頭も使うから健康にもいいんです」と笑顔で話してくださいました。

(取材 宮田美保子)



### ～工芸ボランティア

### 被災地のみなさんをお迎えして～

東日本大震災の被災地支援の一環で行われた「信州まつもとこどもキャンプ」で、木工の体験を実施しました。自然に囲まれた奈川でヒノキのマイ箸を作ったり、つるや葉っぱを使ってリースにしたり、また木の実や枝でおもちゃやペンダントなどを作り、思い出と一緒に持ち帰れるお土産がひとつ増えました。

この日は、キャンプに参加していた福島県飯舘村の親子19人と木祖村に避難していた南相馬市の家族12人、それに地元奈川の小学生14人が交流しながら楽しみました。



種や実を使って何ができるかな



かなな 鉋で削ってマイはしづくり

工芸の指導をしてくださったのは、個人ボランティアの山田俊二さん、松崎鈴子さん、大林俊明さん、山田義明さん、松澤佳伸さんの5人。奈川に到着するとすぐ材料として使える木の枝や葉っぱなどを採取して、皆さんの到着を待ちました。

限られた時間の中でしたがそれぞれが工芸に取り組み、世界でひとつの作品が出来上がって、とても嬉しそうでした。

ボランティアの皆さんは「つらい思いもある中、少しでも楽しんで笑顔になっていただけて良かったです」とおっしゃっていました。



# 「災害ボランティアセンターが活躍」

## ～6月30日、震度5強の松本地震～



6月30日、松本市に震度5強の地震が発生しました。災害の復興支援のために、松本市社会福祉協議会が翌日松本市ボランティアセンター内(双葉)に災害ボランティアセンターを設置し、7月15日に閉鎖するまでの15日間、支援ボランティアの受付、被災者からのニーズの受付、活動のための調査や派遣調整などの活動を行ないました。件数等は次のとおりです。

- ・ニーズ(支援を希望する方)の件数 69件
- ・ボランティア派遣 60件 (9件はボランティアの対象外)
- ・ボランティア登録者 106人
- ・うち活動者 75人

おもなニーズは、家具や食器棚の移動、瓦やブロックの撤去、散乱したものの片づけ、ゴミ出しなどで、高齢の方にとっては大変な力仕事が多かったです。ただ、活動していただいたボランティアの感想の中には「今回の地震による散乱か、日頃から散らかっているのかわからない家もあった」とか「ゴミ出しでは、この時とばかり何でもかんでも出している人もいて、モラルを疑いたくなる」という声もあり、考えさせられました。



今回の地震で、発災から災害ボランティアセンターを立ち上げ、スムーズな運営をするためのさまざまな課題が見えてきました。



高齢者宅での片づけ

## 被災者の復興支援をするのが「災害ボランティアセンター」

松本市災害ボランティアセンター



このことをよく知らない市民の方がまだまだ多く、どうやって周知徹底を図り、ボランティアの支援を多くの被災者につなぐかが最大の課題です。「手を貸してほしい」の声が上がってこないボランティアは助けられないからです。かといって何でもかんでもお願いできるか?ということではなく、危険を伴う作業や、プロでないといけないことは活動できません。

(例えば、屋根に上るとか床を剥ぐなど)

また、震災の支援活動に必要な物資や車輛など、実際に体験することで、前もって準備しておくべきものに気づくことができました。頭の中で考えていたこととの「違い」です。

この経験をもとに、社協も災害ボランティアセンターの迅速な立ち上げと効率的な運営のため、今までのマニュアルを見直し、災害に備えたいと思います。

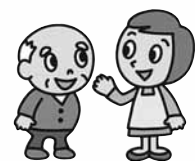
### 受講者募集

## お待たせしました! 「傾聴ボランティア講座・初級」

毎年好評の「傾聴ボランティア講座・初級」を下記のとおり開催します。

傾聴ボランティアとは、相手のお話をじっくりお聴きすることで、心を癒すことのできるボランティア活動です。人間関係は会話からといわれるほど、「会話」は大切なコミュニケーションの手段です。「いい会話」、「もう一度したい会話」のためには、話し手より聴き手が重要です。そんなコツを学びませんか?

- 期 日 10月27日(木) 28日(金) 29日(土) (29日は公開講座)
- 時 間 午前9時半～午後4時まで (29日は午前中のみ)
- 講 師 NPO法人 ホールファミリーケア協会事務局長 山田 豊吉氏
- 会 場 市民活動サポートセンター(大手事務所2階)
- 参加費 3日間で1,000円(公開講座のみの方は500円)
- 受講条件 原則として3日間受講でき、今後ボランティア活動にご協力いただける方
- 募集人数 36名(先着順)※初心者優先 29日(土)は60名まで、どなたでも参加可
- 申し込み、問い合わせ 松本市ボランティアセンター TEL 25-7311





10月1日▶12月31日

# 赤い羽根共同募金

## 温かなご協力をお願いいたします！

赤い羽根共同募金は、昨年度も市民の皆さまの温かなご協力により、40,302,189円が寄せられ、下記のような市内各地区の福祉事業や市全域、県の広域福祉事業に使わせていただいております。

本年度も、**赤い羽根共同募金運動が10月1日から12月31日まで**、全国一斉に行なわれます。引き続き、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

平成二十三年十月一日号 第一九二号

発行人 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会

会長 渡辺

聡

松本市双葉四番十六号

印刷所 信州印刷株式会社



ふれあい文化祭（神林地区）

### ◆市全体の事業へ

- ・車いすや福祉自動車の貸し出し
- ・市社会福祉大会の開催
- ・「社協まつもと」の発行等広報活動
- ・社会福祉普及校への助成
- ・ボランティア活動の推進
- ・町会児童遊園地の整備
- ・災害見舞いの実施など



### ◆その他

- ・県の広域的な福祉事業（施設の改修や整備、福祉団体が開催する講習会への補助など）にも活用されています。



世代間交流もちつき大会（安原地区）

### ◆各地区の事業へ

- ・敬老祝賀会の開催
- ・ふれあい会食会の開催
- ・子育て支援事業の実施
- ・地区ふれあいまつりの開催
- ・ボランティアの育成
- ・見守り安心ネットワークの推進など



ほらほらまつり（四賀地区）

## 車いすの返却と更新手続きのお願い



社会福祉協議会では、市民の皆さまからご寄付をいただいた車いすを無償で貸し出しております。

貸し出し期間は、**最長6ヵ月**で、**それ以降継続して利用される場合は、6ヵ月ごとの更新手続きが必要**となります。多くの皆さまにお使いいただくため、社協から車いすを借用して、返却や更新の手続きがお済みでない方はご協力をお願いいたします。

【問い合わせ】 社協地域福祉課 電話25-7311 FAX27-2239

## 日赤救急法救急員の資格継続研修（松本会場）

- ・受講資格 平成20年4月以降に資格を取得され、なおかつ資格有効期間（発行日から3年間）の残り期間が1年以内（取得後2年以上経過）の方
- ・期 日 平成23年11月5日（土） 午前9時～午後2時
- ・場 所 松本市総合社会福祉センター3階（松本市双葉4番16号）
- ・定 員 30名
- ・持 ち 物 参加費（1,000円）、教本、筆記用具、実技のできる服装
- ・申し込み 電話による申し込み、または所定の申し込み用紙を、日赤長野県支部ホームページよりダウンロードし、2週間前までに下記へ郵送またはFAXで提出してください。



※申し込み・問い合わせ 日赤松本市地区事務局  
〒390-0833 松本市双葉4番16号 電話27-3381 FAX27-2239

（申し込み用紙 日赤長野県支部URL <http://www.nagano.jrc.or.jp>を参照）



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

「社協まつもと」はみなさんからの共同募金の配分金で発行されています。